

議員提出議案第7号

第32回オリンピック競技大会及び第16回パラリンピック競技大会東京招致に関する決議

上記の議案を提出する。

平成24年3月28日

提出者

1番	むらまつ 勝康	2番	池田 ひさよし
3番	中村 けいこ	4番	平田 みつよし
5番	秋本 とよえ	6番	筒井 孝尚
7番	秋家 聡明	8番	小山 たつや
9番	くぼ 洋子	13番	出口 よしゆき
14番	黒柳 じょうじ	15番	上原 ゆみえ
16番	安西 俊一	17番	新村 秀男
18番	くげ しげる	19番	うてな 英明
20番	大高 たく	21番	清水 忠
22番	工藤 きくじ	23番	佐藤 ゆうだい
24番	米山 真吾	25番	梅沢 五十六
26番	小用 進	27番	舟坂 ちかお
28番	ふせ 秀明	29番	上村 やす子
30番	向江 すみえ	33番	斉藤 初夫
34番	牛山 正	35番	荒井 彰一
36番	丸山 銀一	37番	倉沢 よう次

葛飾区議会議長 梅沢 五十六 殿

第32回オリンピック競技大会及び第16回パラリンピック競技大会東京招致に関する決議

昨年3月11日に東日本を襲った大震災と巨大な津波及び福島第一原子力発電所の事故は、我が国に甚大なる被害をもたらしたが、現在、復興と収束に向けて歩み出している。

一方、オリンピック及びパラリンピックは、スポーツ祭典の中でも、ほぼ全世界の国と地域から選手団が参加する最大規模のものであり、これまでも参加する者、観る者に大きな感動を与えてきた。

オリンピック及びパラリンピックがもたらす人間の持つ限りない可能性は、復興へ向けて歩む人々にとっ

ても、大きな力となるはずであり、さらには、復興を成し遂げた姿を全世界の人々に示し、人々をもてなすことは、世界中から寄せられた支援に対する感謝の気持ちを表す最も効果的なものとなる。

1964年の東京オリンピックが、終戦の焼け野原から復興したエネルギーを世界に示したように、2020年オリンピックを東京で開催することは、我が国が東日本大震災から僅か9年で再び力強く復興した姿と日本が安全であることを世界に示すことができ、我が国自身にとっても復興を成し遂げるための象徴的な目標となる。

また、現在、東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会評議会は、会長に都知事、最高顧問に総理大臣を配し、多くのスポーツ団体、経済団体が名を連ねているうえ、被災地である岩手・宮城・福島県の3知事が加わり、オールジャパン態勢で挑む状況になっている。

さらに、パラリンピックの開催は、バリアフリーやユニバーサルデザインの浸透による障害者が暮らしやすい社会の実現、誰もが相互に人格と個性を尊重し合う共生社会の実現を促進する。

国においては、「スポーツ基本法」が成立する中、国家戦略として、国立霞ヶ丘競技場の改築や周辺地域の環境整備を進めるなど、スポーツに関する施策の推進がさらに求められる。また、東京においては、国民体育大会と全国障害者スポーツ大会を一つの祭典として開催するスポーツ祭東京2013に向けての取組みが進んでおり、こうした機を捉えて国際大会を東京に招致することは、まさに時宜にかなったものと言えよう。

よって、葛飾区議会は、2020年に開催される第32回オリンピック競技大会及び第16回パラリンピック競技大会の東京招致をここに強く求めるものである。

以上、決議する。